

地球温暖化防止/大気汚染防止

地球温暖化の原因となっているCO₂。

日東電工でのCO₂の主な発生源は、約70%がエネルギー使用、約25%が有機溶剤処理に起因しており、効率的なエネルギー使用や燃料転換、有機溶剤を使用しない製品の開発に力を入れています。

CO₂排出削減と省エネルギー（日東電工単体）

**エネルギー管理システムを導入し
さらなる省エネ活動につなげていきます**

日東電工のCO₂排出量は、約70%がエネルギー使用、約25%が有機溶剤の燃焼処理によるものです。そのため、省エネ設備の導入やCO₂排出量の少ない燃料への転換、有機溶剤処理方法の変更に取り組んでいます。2005年度のCO₂排出量原単位は、1,109t-CO₂/百万円と2004年度比16%削減しました。しかし、総排出量では事業拡大にともない増加傾向にあるため対策が急務となっています。

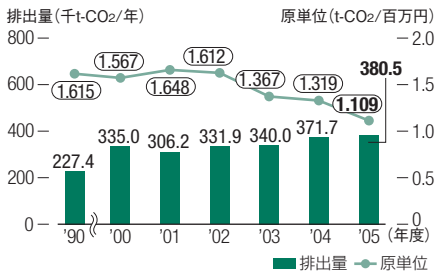
2005年度の日東電工のエネルギー使用量原単位は、368ℓ/百万円となり、2010年度目標を前倒しで達成することができました。生産高の大幅増加も達成要因の一つですが、脱炭素の蓄熱化や、精留残渣の燃料化、豊橋事業所でのエネルギーバランスの見直しなどの効果も大きく貢献しました。

事業拡大にともなうエネルギー使用量の増加に対応するため、2006年1月に東北、関東、亀山、滋賀の4事業所でエネルギー管理システムを導入。エネルギー使用状況の把握・分析が容易になりました。今後はこのデータを利用し、効果的な省エネ活動を推進していきます。また、2006年7月には尾道事業所で太陽光発電システムが完成し稼働する予定です(P17-18参照)。

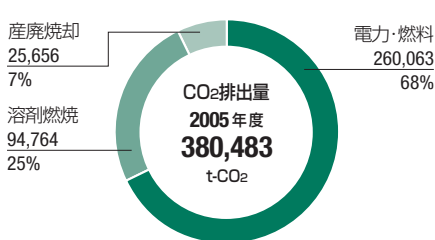
製造プロセスから発生する有機溶剤を排ガス処理装置などで燃焼処理する際に、有機溶剤そのものの燃焼によってCO₂が発生します。この活動によるCO₂排出量は、現在、国際的な報告義務の対象となっていないませんが、日東電工グループでは、これも大気中のCO₂濃度を増加させる要因の一つと考え、事業活動によるCO₂排出量として管理しています。

日東電工単体

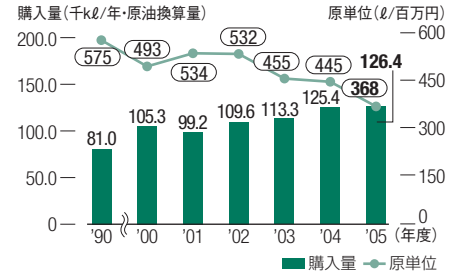
CO₂排出量と原単位



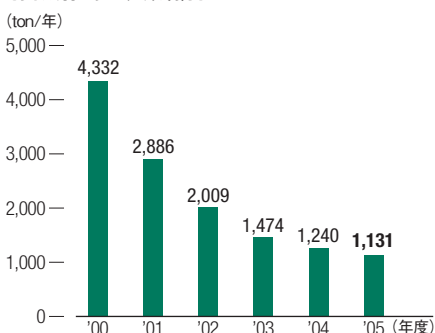
要因別CO₂排出量



エネルギー購入量と原単位



有機溶剤の大気排出量



主なPRTR対象物質の大気排出量

物質名	2000	2001	2002	2003	2004	2005
トルエン	3,236	2,067	1,379	678	610	653
ジクロロメタン	178	72	72	83	89	6
キシレン	27	26	16	20	16	11
フタル酸ジ-n-ブチル	3	2	0	0	0	0
エチレンジクロールモノメチルエーテル	2	0	2	2	2	0
エチレンジクロール	0	0	0	1	1	0
ジクロロベンタフルオロプロパン	19	14	7	3	2	1
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	5	4	4	0	0	0
ポリ(オキシエチレン)ノニルフェニルエーテル	3	9	3	1	0	0
アクリル酸	1	1	1	0	0	0
エチルベンゼン	0	0	8	8	9	4
N,N-ジメチルホルムアミド	0	0	0	0	28	2

有機溶剤の大気への排出（日東電工単体）

**2000年度比73%減となり、
2005年度目標を達成しました**

2005年度の有機溶剤の大気排出量は、2000年度と比較して73%削減の1,131トンとなり目標を達成しました。

しかし、有機溶剤の使用量は2005年度では49,746トンとなり、生産量の増加にともない年々増えている状況です。使用する有機溶剤を削減するため、製品開発に力を入れることはもちろんですが、同時に溶剤乾燥設備などから漏れる有機溶剤を回収する方法についても対策を進めていきます。

製品の無溶剤化

**いろいろな方法で有機溶剤を使用しない
製品の開発を進めています**

有機溶剤の使用量を削減するため、日々無溶剤化製品の開発に努めています。有機溶剤を使用しない方法としては、水を使用するエマルジョン型、熱を使用するホットメルト型、材料に光を当てて粘着剤にするUV重合型などがあります。

無溶剤に移行した製品の一例

SPV-Mシリーズ、Aシリーズ、Cシリーズの一部(表面保護材料)、紙マスキングテープなど